

「オレンジのまちづくり」はじめました

オレンジ色をシンボルカラーとして、市民や企業等が行政と一緒に福祉のまちづくりを展開しています。認知症への理解、児童虐待防止、障害への理解促進を福祉の一体的な取組として、共生社会の実現を目指します。



オレンジのまちづくり
はじめました

～ともに幸せを生きる～
広げよう、ささえあいの地域づくり

～ オレンジのまちづくりって？ ～

福知山市では、令和元年度から「オレンジのまちづくり(オレンジ運動)」を始めました。オレンジのまちづくりとは、これまで、高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉のそれぞれの分野で行ってきた3つの取組を、オレンジ色をシンボルカラーとして一体的に行っていくために、行政の縦割りを転換し、より横断的に、一体として進めていく取組です。



キックオフイベントとして、令和元年10月19日にさわやか福祉財団の堀田会長を迎え、「オレンジのまちづくりフォーラム」を開催し、ともに「幸せを生きる」ささえあいの地域づくりについて考えました。

オレンジ色をシンボルカラーとした3つの取組



オレンジリング

認知症サポーターとなった証として渡されるリストバンド。認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族をサポートできるような、自分のできる範囲で活動します。



あいサポート運動

多様な障害の特性、障害のある人が困っていること、障害のある人への必要な配慮などを理解して、ちょっとした手助けや配慮を実践することにより、暮らしやすい社会をみなさんと一緒につくっていくことを目的とした運動です。



オレンジリボン運動

多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、オレンジリボンを広めることで虐待のない社会を目指す運動です。2005年に栃木県で起きた幼いきょうだいの虐待死事件をきっかけとして始まり、全国へ広まりました。

3つの取組を一体的に実施＝オレンジのまちづくり

オレンジのまちづくりに関するお問い合わせは、福知山市役所福祉保健部へ